



公益財団法人岩手県体育協会
理事長 高橋 光彦
(希望郷いわて国体総監督)

平成 28 年は希望郷いわて国体冬季大会に始まり、リオオリンピック・パラリンピック、そして希望郷いわて国体本大会、第 16 回全国障害者スポーツ大会(いわて大会)と続き、まさに感動、感激、感涙の連続、スポーツの醍醐味と素晴らしさを共有・堪能したスポーツイヤーの 1 年でした。

第 71 回国民体育大会「希望郷いわて国体」は、「東日本大震災復興の架け橋」の冠称のもと、「完全国体」として開催され、「天皇杯順位 8 位以内の入賞」の目標を大幅に押し上げ、天皇杯皇后杯ともに第 2 位の成績を残すことができました。まさに「オール岩手」の取組による総合開閉会式を始めとし、大会・競技会運営、応援体制やおもてなしの心、「チームいわて」の岩手県選手団の大活躍により当初の目的を達成し大きな成果を挙げ、県内外から多くの賞賛の声と拍手をいただきました。「岩手県選手団」はもとより、多くの関係者や県民の皆様の御支援・御協力に深く感謝を申し上げます。

そして、年明け早々の 1 月 8 日～ 14 日に第 15 回日韓青少年冬季スポーツ交流(受入)が、開催されました。韓国から 102 名の中学生選手団と役員を迎え、氷上競技のスピードスケート、ショートトラック、カーリング、アイスホッケーが盛岡市と花巻市において、スキー競技は秋田県鹿角市で行われました。さらに、2 月 20 日～ 27 日に日韓青少年冬季スポーツ交流(派遣)で本県中学生を中心とした選手団 148 名編成で韓国ソウルでの遠征交流があり貴重な経験を積むことができました。

また、1 月 27 日から長野県において第 72 回国民体育大会冬季競技の「ながの銀嶺国体」スケート・アイスホッケー競技会が開催され、成年男子 1500m と 5000m の渡部知也選手、少年女子 500m の熊谷萌選手の優勝をはじめ、入賞が相継ぎ男女総合成績第 7 位という素晴らしい成績を残しました。

引き続き 2 月 14 日から「ながの銀嶺国体」スキー競技会が開催され、スペシャルジャンプ成年男子 B の永井健弘選手とクロスカントリー成年女子 A の土屋正恵選手の優勝をはじめ選手団の健闘により前回いわて国体の成績を上回る男女総合成績第 5 位の結果でした。冬季競技終了時点で男女総合成績第 4 位と素晴らしい成績を収め本大会(えひめ国体)に向けて好発進することができました。

国体のレガシー(遺産)を継承しての競技力の維持・向上は大きな課題でもあります。関係機関・団体・企業等と連携を一層強固にしつつ、えひめ国体に向けて「いわて国体」で培った選手強化やノウハウを十二分に活用し、更なる奮闘精進を期待したいと思います。

皆様には、今後とも益々の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。